

試験研究成果普及情報

| 部門 | 資源管理・増養殖 | 対象 | 研究・普及 |
|---|---------------|--------------------|-------|
| 課題名：キヌイトアオノリ採苗網の沖出し技術の開発 | | | |
| 〔要約〕青混ぜ海苔の原料であるキヌイトアオノリの安定生産のため、人工採苗後の養生期間及び生産初期の干出時間について検討した。人工採苗後の養生期間は2日の干出耐性が高く、沖出し後の生長も良好であった。また、生産初期の干出時間は60分程度が適当と考えられた。 | | | |
| キーワード キヌイトアオノリ，人工採苗，生産管理，沖出し，青混ぜ海苔 | | | |
| 実施機関名 | 主 査 | 水産総合研究センター東京湾漁業研究所 | |
| | 協力機関 | - | |
| 実施期間 | 2019年度～2020年度 | | |

〔目的及び背景〕

黒ノリにアオノリを混ぜた青混ぜ海苔は、風味の良さから、高い単価で取引され、地域産品として消費者の関心も高い。原料となるキヌイトアオノリの生産は天然採苗に依存しており、安定生産のためには人工採苗技術と生産管理技術を確立する必要がある。これまでに人工採苗のための母藻の大量培養技術を開発したことから、採苗後から沖出しまでの養生期間及び沖出し後の網汚れの除去手法として干出処理時間を検討した。

〔成果内容〕

- 1 人工採苗後のノリ芽の干出耐性について、養生期間2, 5, 10日の採苗糸を0～180分間乾燥して比較したところ、養生期間2日の干出耐性が最も高かった。
- 2 養生期間が2日のノリ芽の乾燥による障害率は、60分では27.4%であったが、90分では60.7%と大きく増加し、生産初期の干出時間は60分以内が適当と考えられた。
- 3 養生期間2日, 7日の採苗網を沖出しし、試験圃場の支柱柵で30日間育成したところ、藻長, 藻幅は養生期間2日では189.92mm, 5.81mm, 養生期間7日では162.81mm, 4.16mmであり、養生期間2日後に沖出しする方が、生長が良好になると考えられた。

〔留意事項〕

干出時間については、養殖現場における日照条件, 湿度, 気温, 風速などの漁場環境を考慮して判断する必要がある。

〔普及対象地域〕 県内東京湾ノリ養殖地域

〔行政上の措置〕 特になし

[普及状況]

キヌイトアオノリの人工採苗・生産技術を生産者に普及指導し、母藻の配布による試験的な養殖が各地で行われ、青混ぜ海苔が生産された。

[成果の概要]

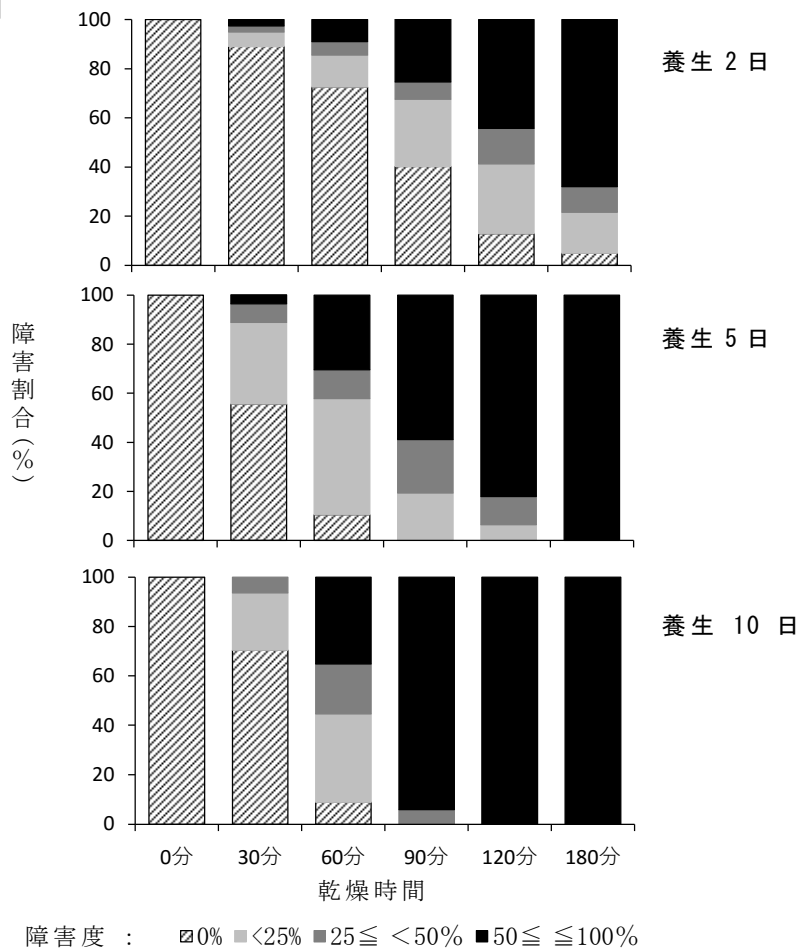


図 1 乾燥時間別の障害度の割合

表 1 養生期間別のアオノリの生長

| | 養生 2 日 | 養生 7 日 | 対照区 (空網) ※ |
|---------|--------|--------|------------|
| 藻長 (mm) | 189.92 | 162.81 | 50.46 |
| 藻幅 (mm) | 5.81 | 4.16 | 18.88 |

※天然由来のアオサ類が優占して繁茂

[発表及び関連文献] なし

[その他] なし